

## 産廃ソフト Ver.7 から Ver.8 へのバージョンアップ方法

■ Ver.8は、windows10に対応しています。

■ windows10をメインパソコン(親機)にする場合は、別途SQLserverのアップグレードが必要です  
8ページ以降を参照ください。SQLserver2014へのアップグレード  
1台で運用の方もwindows10にする場合は、SQLserverのアップグレードが必要です

最新版Ver.8へのバージョンアップにあたり、まず旧版Ver.7のアンインストールが必要になります。

Ver.7からVer.8へバージョンアップするにあたり、下記の作業が必要となります。  
1～5の手順に沿って作業をお願いします。

- ・バージョンアップが完了するまでソフトは使用できません。アップ完了したPCから使用可能です。
- ・パソコン1台あたり30分以内の作業とお考えください

### 1. Ver.7アンインストーラーのダウンロード

Ver.7を半自動でアンインストールできるツールです。

### 2. 産廃ソフトVer.8のダウンロード

1. 同じ画面で各ソフトをひとつひとつダウンロード。

### 3. Ver.7のアンインストール作業

1. にてダウンロードしたツールを使用してアンインストール。

### 4. 産廃ソフトVer.8のインストール作業

2. にてダウンロードしたSetupファイルを使用してインストール。

### 5. データベースの設定

データベースに接続させるために必要です。(初回の1回のみです)

次ページより、詳しい操作について記載しております。

## 1. Ver.7アンインストーラーのダウンロード

- 1) デスクトップに新規フォルダを作成してください。(バージョンアップ作業用の一時フォルダ)
- 2) 弊社ホームページ <http://www.sanpai.com> からログインをして、ダウンロード画面を開いてください。「旧バージョンのアンインストーラー」をクリック、名前をつけて保存(保存の右の▼の中にあります)をクリック、作成した新規フォルダに保存してください。

The image shows a sequence of steps for logging into the Sanpai website. It starts with the main homepage where the 'ログイン' button is highlighted. A red arrow points to a secondary page where the 'ログイン' button is again highlighted. A second red arrow points to a detailed view of the login form, which includes input fields for 'ユーザーID' and 'パスワード', a 'ログイン' button, and a checkbox for 'ユーザーIDを保存'. A red box highlights the 'ログイン' button in this detailed view.



産廃ソフトVer.8.0シリーズ / 64bit版

あなたのパソコンは**64bit版に対応**しています。 ※32bit版については[こちら](#)

■ **アップデートする前に必ず下記の作業を行って下さい。**

旧バージョンから、Ver.8.0へアップデートされる方は、まず**旧バージョンをアンインストール**して下さい。

アンインストールするには「**旧バージョンのアンインストーラ**」をお使い下さい。

※ アップデート前に必ず上記作業を行って下さい。複数台でご利用の方は、パソコン毎に同作業を行って下さい。

[ここからアンインストーラをダウンロードできます](#)

2. 産廃ソフトVer.8のダウンロード

続けて同じ画面にて、そのパソコンに必要な産廃ソフトVer.8のダウンロードです。

- 1) **そのパソコンで必要なソフトの右のフロッピーディスクマークをクリック、名前をつけて保存** (保存の右の▼の中にあります)をクリック、デスクトップの新規フォルダに保存してください。
- 2) ダウンロードが全て完了しましたら、弊社ホームページは最小化しておいてください。  
(もしダウンロード漏れがあった際にすぐに作業できるため)

※32bitと64bitでバージョンアップ用ファイルが別物になります。そのパソコンがどちらになるかは自動認識されますので、基本的には意識しなくても大丈夫です。

★**メイン版、クライアント版はどちらをダウンロードしても大丈夫です。**ファイルは同じです。

★特にて、以下の5つのソフトいずれかご使用の場合は**ダウンロード漏れ**がないようご注意ください

- SMS-ASP(産廃WEB)
- 特注・指定請求書
- 産廃処理業者帳簿(イチローのエクセルタイプ帳票ソフト)
- シリアル通信サーバー(軽量指示計が接続されているパソコンのみ必要です)
- 年次報告プログラム(行政報告書作成時期でも問題ありません。普段は使用しないため)

SMSのHPIにログインし、「〇〇の署名が壊されているか、無効です。」のエラーメッセージが出た際のダウンロード方法

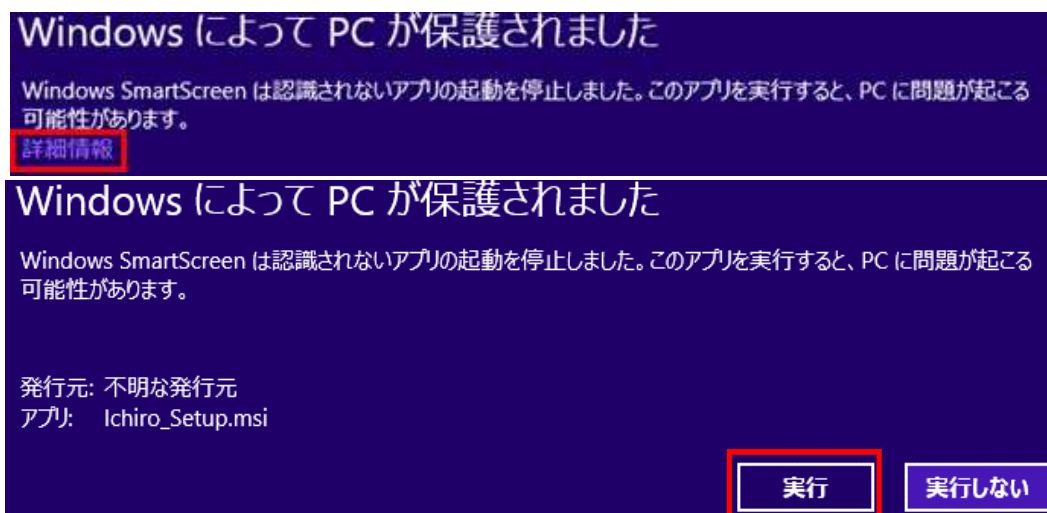
1. 「ダウンロードの表示」をクリック



2. ダウンロードを行いたいファイルを選択します。  
ファイルを選択後右クリックを押し、「実行」を選択します。



3. 「詳細情報」を選択。



あなたのパソコンは**64bit版に対応**しています。 ※32bit版については[こちら](#)

■ **アップデートする前に必ず下記の作業を行って下さい。**

旧バージョンから、Ver.8.0へアップデートされる方は、まず**旧バージョンをアンインストール**して下さい。

アンインストールする際には「[旧バージョンのアンインストーラー](#)」をお使い下さい。




※ アップデート前に必ず上記作業を行って下さい。複数台でご利用の方は、パソコン毎に同作業を行って下さい。

### SQL Server 2014のダウンロード

SQLserver2005もしくは2008R2からアップグレードするユーザー様向けです。

Windows10をメイン機にする方は**必須**となります。

※ SQL Server Management Studio 2014は、このページの下部「[その他プログラム](#)」内にあります

製品名	64bit
産廃イチロー (メイン版) <a href="#">更新履歴</a>	
産廃イチロー (クライアント版) <a href="#">更新履歴</a>	
SMS-ASP (産廃WFR) <a href="#">更新履歴</a>	

同じファイルです

ここからダウンロードできます

### 3. Ver.7のアンインストール作業

- 1) デスクトップの作業用フォルダを開いてください

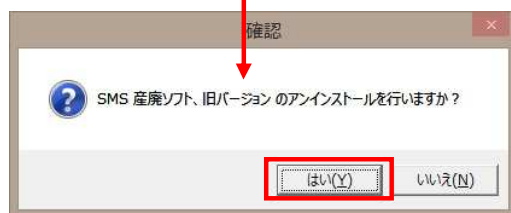
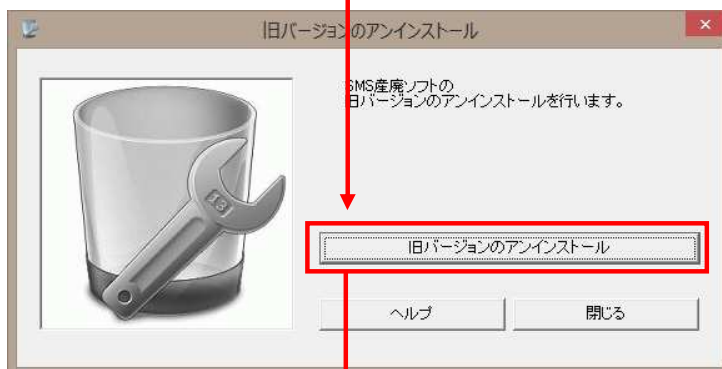
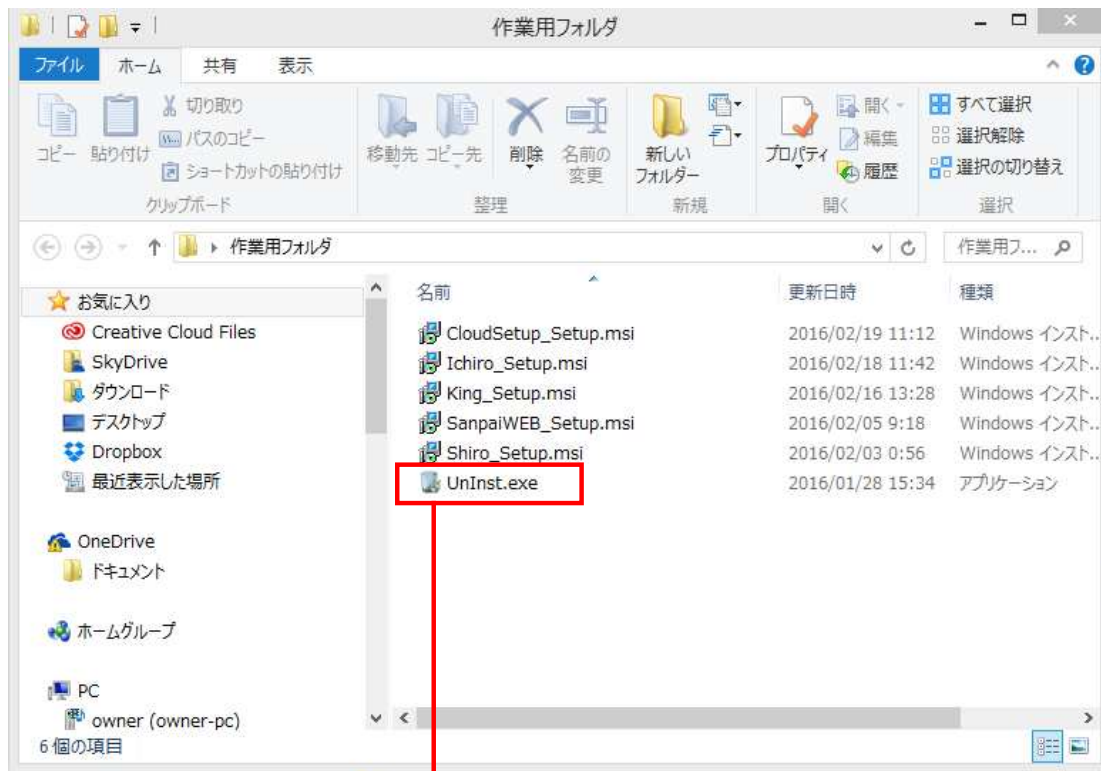
**\* 産廃ソフトが全て終了している状態で作業をお願いします。**

- 2) 「UnInst.exe」をクリックし、「[旧バージョンのアンインストール](#)」→ [はい]で進めてください。  
Ver.7のアンインストールが始まります。(ソフトの数によって多少時間がかかります)

一回の操作で、そのパソコン内の全ての産廃ソフトVer.7がアンインストールされます。  
パソコン毎でのアンインストール作業が必要となります。

※Windowsのコントロールパネルの「プログラムのアンインストール」からも手動でアンインストールは可能ですが、**確実にお手軽な**アンインストーラーのご使用をオススメします。





アンインストールが終了すれば自動的に画面が閉じます。

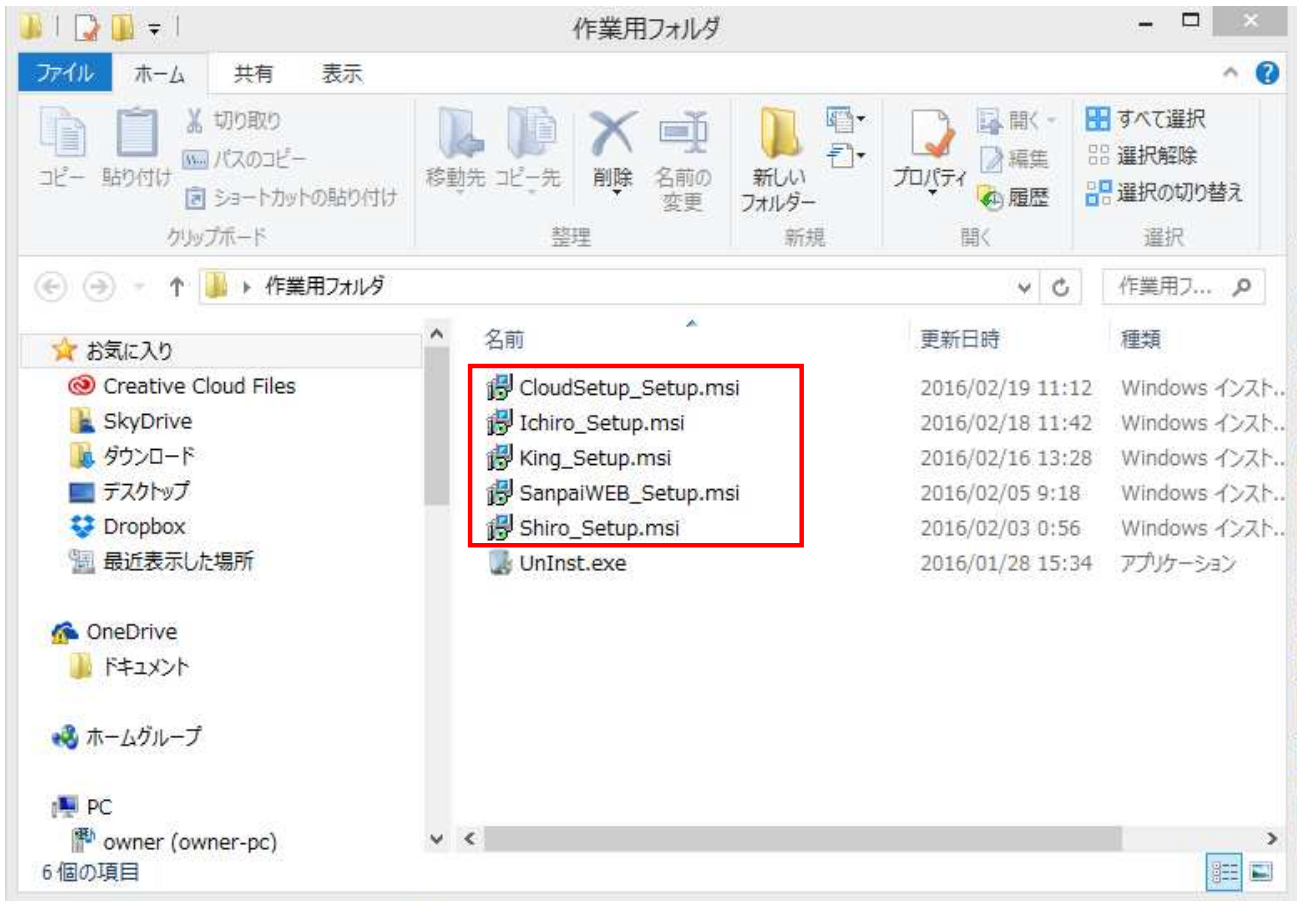
#### 4. 産廃ソフトVer.8のインストール作業

各ソフトのSetupファイルを実行します。

1) 作業用フォルダの中の各ソフトsetupファイルを順番に実行します。

各メニューにて順次「次へ」で進んで、インストールを完了させてください。

デスクトップにVer.8のショートカットが作成されます



#### 5. データベースの設定

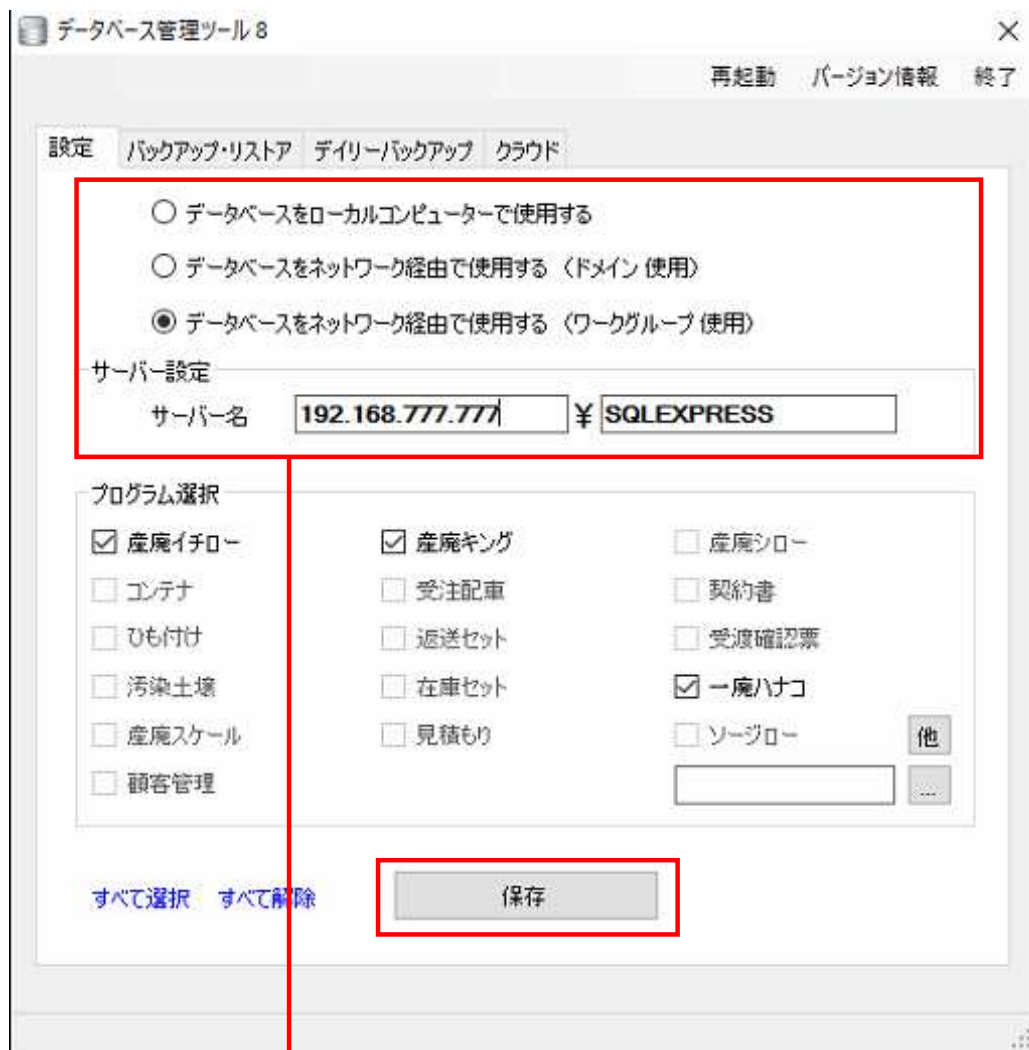
1) 「データベース管理ツール8」を起動して、「保存」をクリックしてください。

[Windowsスタートメニュー] → [すべてのプログラム] → [エスエムエス]フォルダ → [データベース管理ツール8]をクリックしてください。

「データベース管理ツール8」を終了し、ソフトが正常に起動できることをご確認ください。

データベース管理ツール8は、初回起動時のみ時間がかかります。  
(年次報告用ファイルをVer7からVer8へ自動コピー処理が走るため)

Ver.8バージョンアップ後、初回起動のみ起動が遅くなります。ご了承ください。  
2回目の起動からは早くなります。



この部分は**絶対に変更しないでください**！（環境によって、設定が様々です）

間違って変更や削除した場合は、**保存をクリックせずに一度終了**させてください。  
再度開けば元通りになります。

以上でバージョンアップ作業は完了です。

複数台のパソコンでご使用の場合は、**他パソコンも同じ作業が必要です**。  
1台でもVer.8になると、他のパソコンのVer.7は使用できなくなります。すぐに作業をお願いします。

**メインパソコン(親機)をwindows10にする場合は、次頁からのSQLserver2014へのアップグレードが必要**



## SQL server 2014 へのアップグレード方法

### ■念のため、バックアップを事前にとってください。

アップグレードすれば、自動的にデータは移動しますが万が一に備えて。

### ■万が一、同じパソコン内で他社ソフトでSQLserverを使用している場合は、他社ソフトが「SQLserver2014」に対応しているかご確認ください。対応していない場合、他社ソフトが突然使用できなくなることもあります。

### ■SQLserver有償版を、弊社経由でご購入された方は、エスエムエスにご相談ください。

### ■windows10をメインパソコン(親機)にする場合は、別途SQLserverのアップグレードが必要です SQLserver2005もしくは2008R2 を2014へのアップグレード 1台で運用の方もwindows10にする場合は、SQLserverのアップグレードが必要です

- ・SQLserverのアップグレードが完了するまでソフトは使用できません。
- ・1時間以内の作業とお考えください。(インストールからネットワーク設定含め)

#### 1. SQLserver2014 setupファイルのダウンロード

弊社HPからダウンロードできます

#### 2. SQLserver2014のアップグレード

1. でダウンロードしたsetupファイルを使用

#### 3. ネットワーク開放設定

複数台のパソコンで運用する方みの作業

#### 4. データベースの設定

データベースに接続させるために必要です。(初回の1回のみです)

次ページより、詳しい操作について記載しております。

## 1. SQLserver2014 setupファイルのダウンロード

1) 弊社ホームページ <http://www.sanpai.com> からログインをして、ダウンロード画面を開いてください。

The image shows a sequence of steps to reach the login page on the sanpai.com website. The main screenshot shows the homepage with a navigation menu. A red box highlights the 'ログイン' (Login) button in the top left. A red arrow points from this button to a smaller screenshot of the 'バージョンアップについて' (About Version Updates) page, where the 'ログイン' button is again highlighted in green. A second red arrow points from this button to a separate window showing the 'ログイン画面' (Login Screen) with input fields for 'ユーザID' and 'パスワード', and a 'ログイン' button, all highlighted in red.

2) 「SQL server 2014のダウンロード」をクリックしてください。

3) 名前を付けて保存(A)にて、デスクトップに保存してください。

あなたのパソコンは**64bit版に対応**しています。 ※32bit版については[こちら](#)

■ **アップデートする前に必ず下記の作業を行って下さい。**

旧バージョンから、Ver.8.0へアップデートされる方は、まず**旧バージョンをアンインストール**して下さい。

アンインストールする際には「[旧バージョンのアンインストーラー](#)」をお使い下さい。

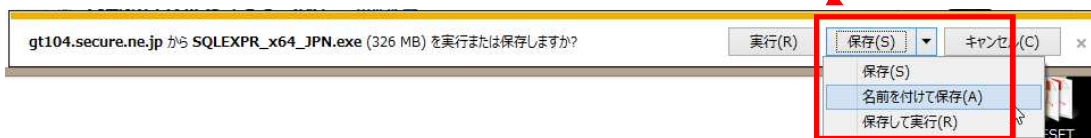
※ アップデート前に必ず上記作業を行って下さい。複数台でご利用の方は、パソコン毎に同作業を行って下さい。

**SQL Server 2014のダウンロード**

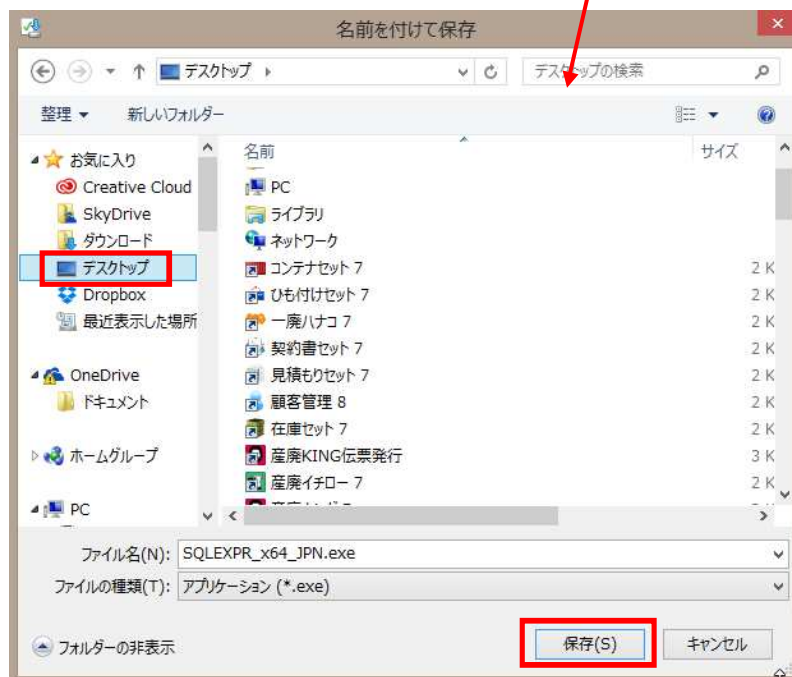
SQLserver2005もしくは2008R2からアップグレードするユーザー様向けです。

Windows10をメイン機にする方は**必須**となります。

※ SQL Server Management Studio 2014は、このページの下部「[他のプログラム](#)」内にあります



※インターネットブラウザによって画面表示が異なる場合があります

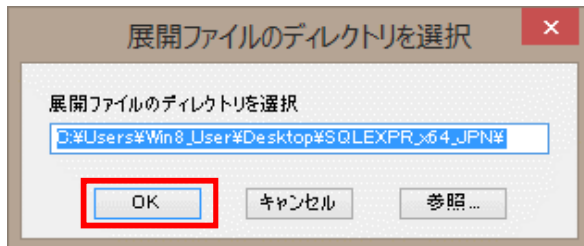


## 2. SQLserver2014のアップグレード

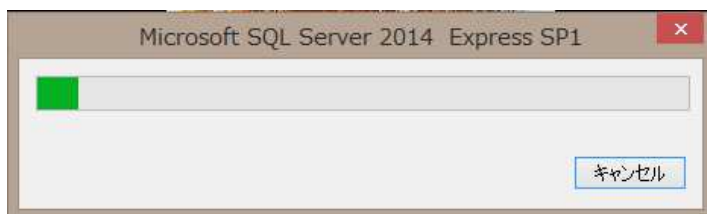
- 1) ダウンロードしたsetupファイルを実行してください。



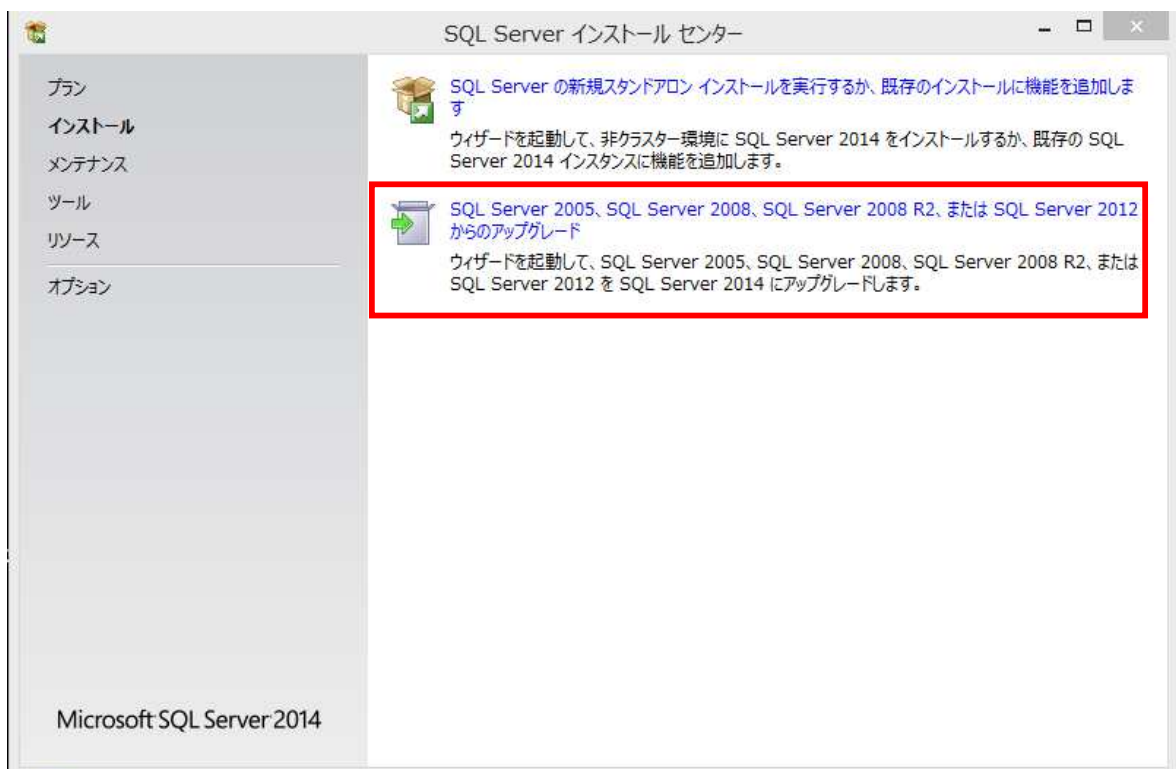
ダブルクリックにて実行する



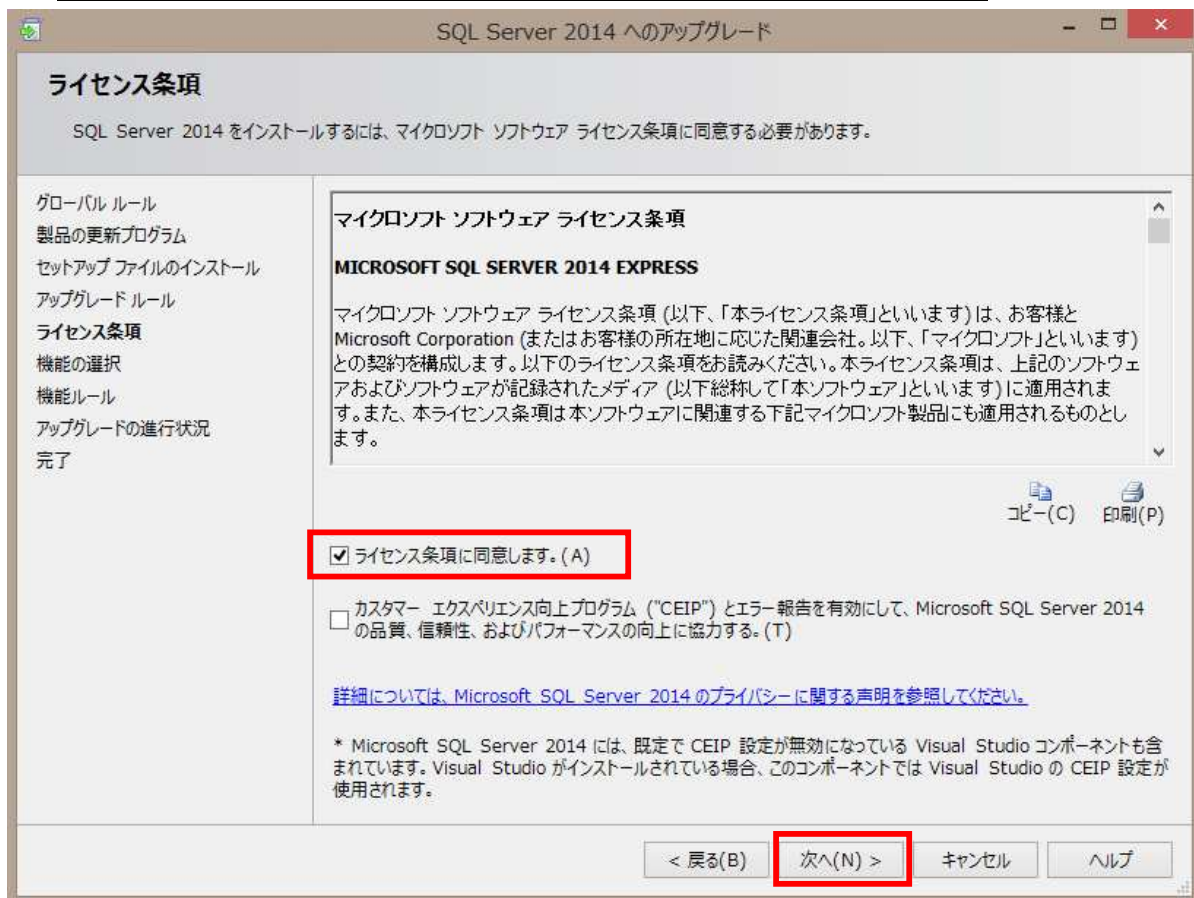
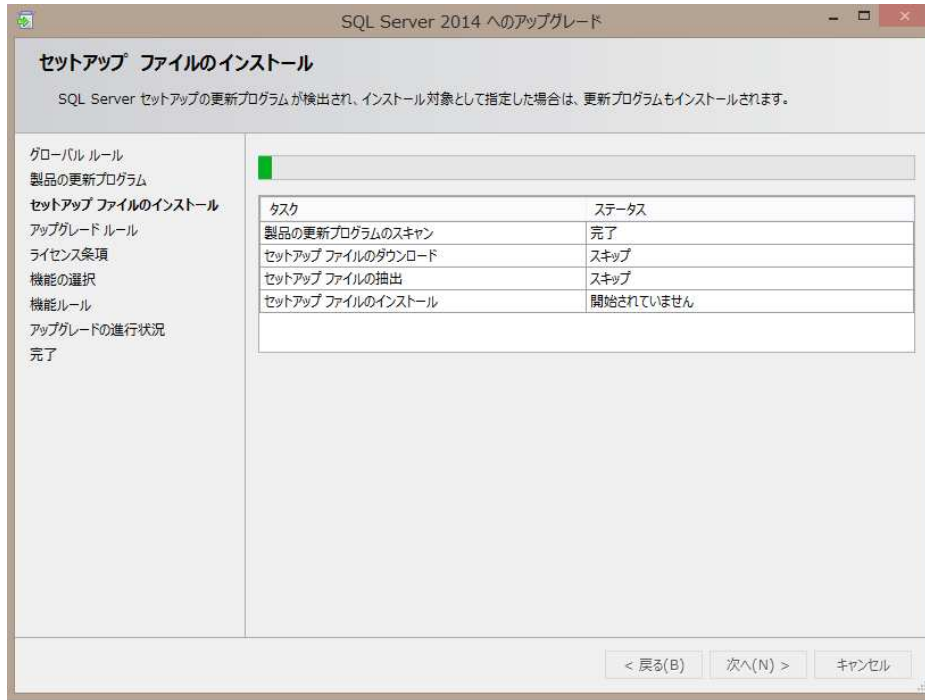
そのままOKをクリックする



- 2) 「SQL Server 2005、SQL Server 2008、SQL Server 2008 R2、または SQL Server 2012 からのアップグレード」をクリックしてください

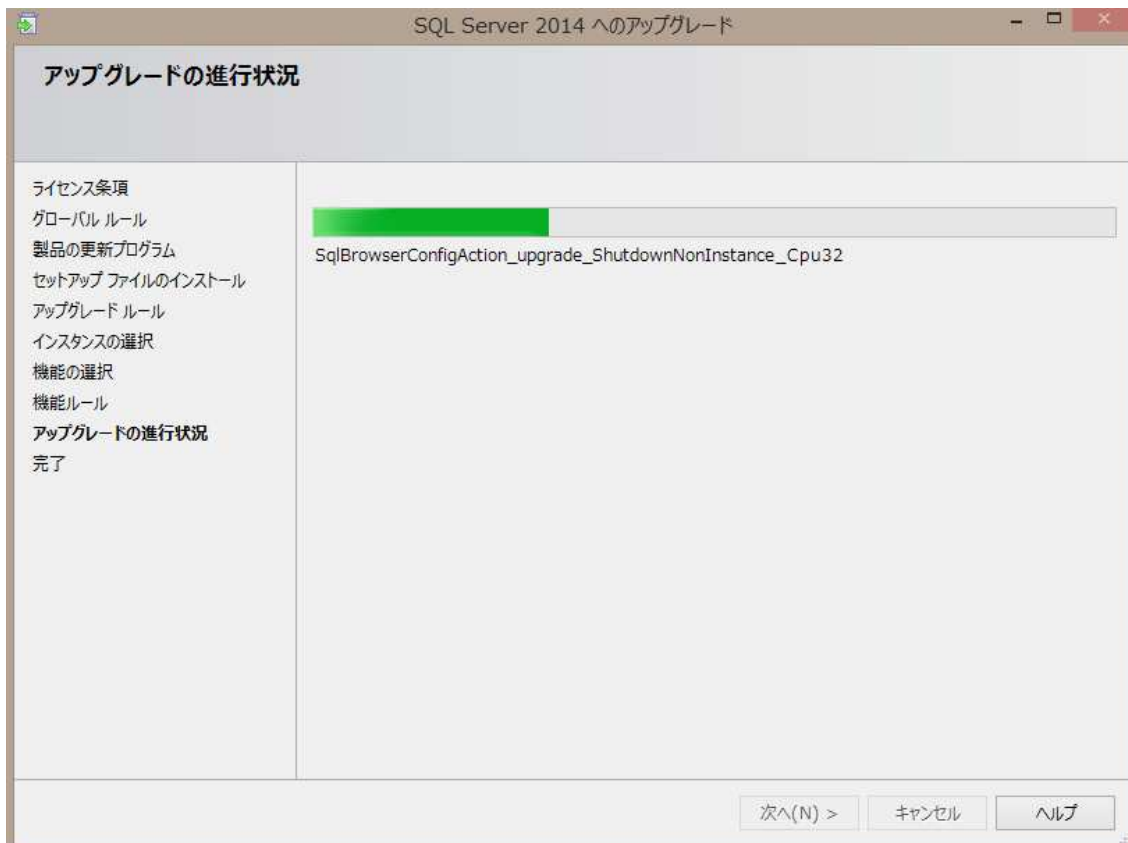
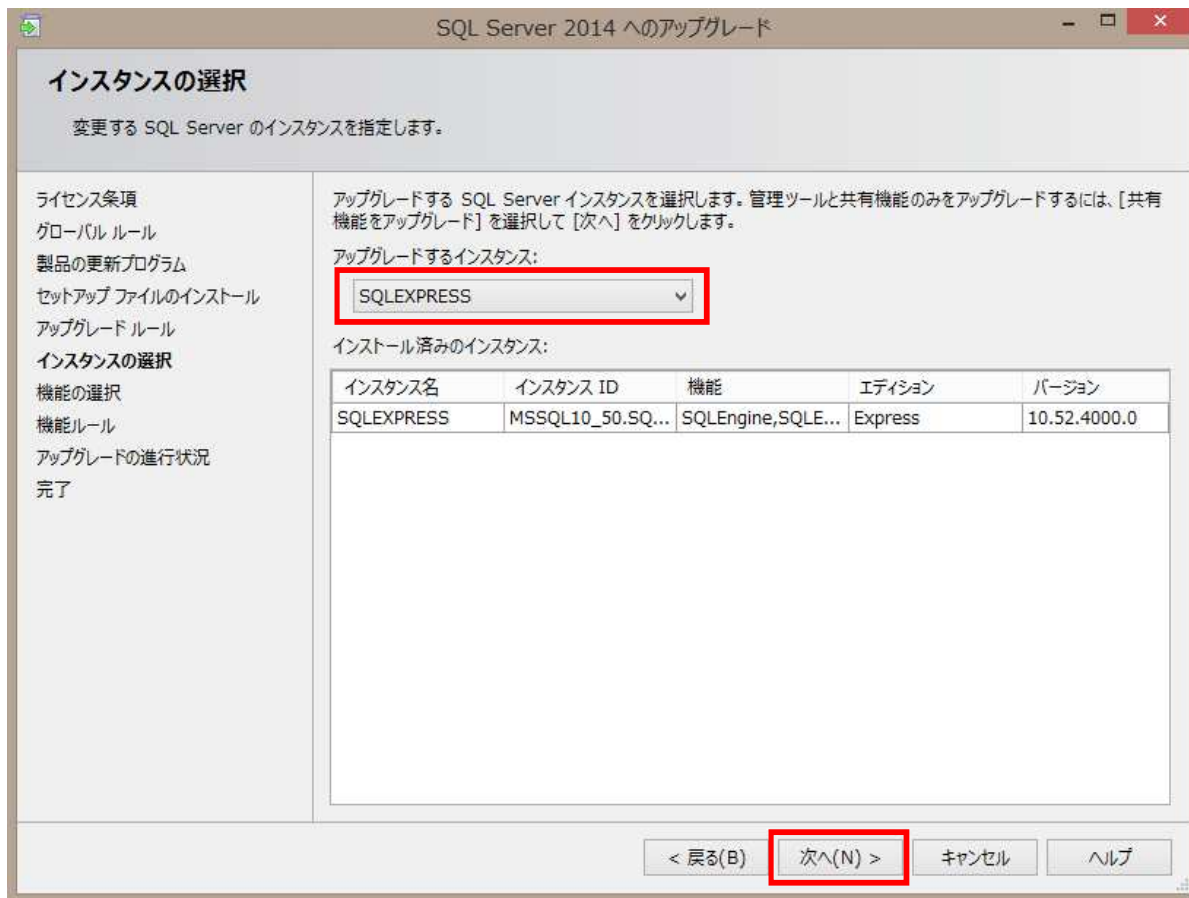


3) 「ライセンス条項に同意します」にチェックを入れて、「次へ」をクリック



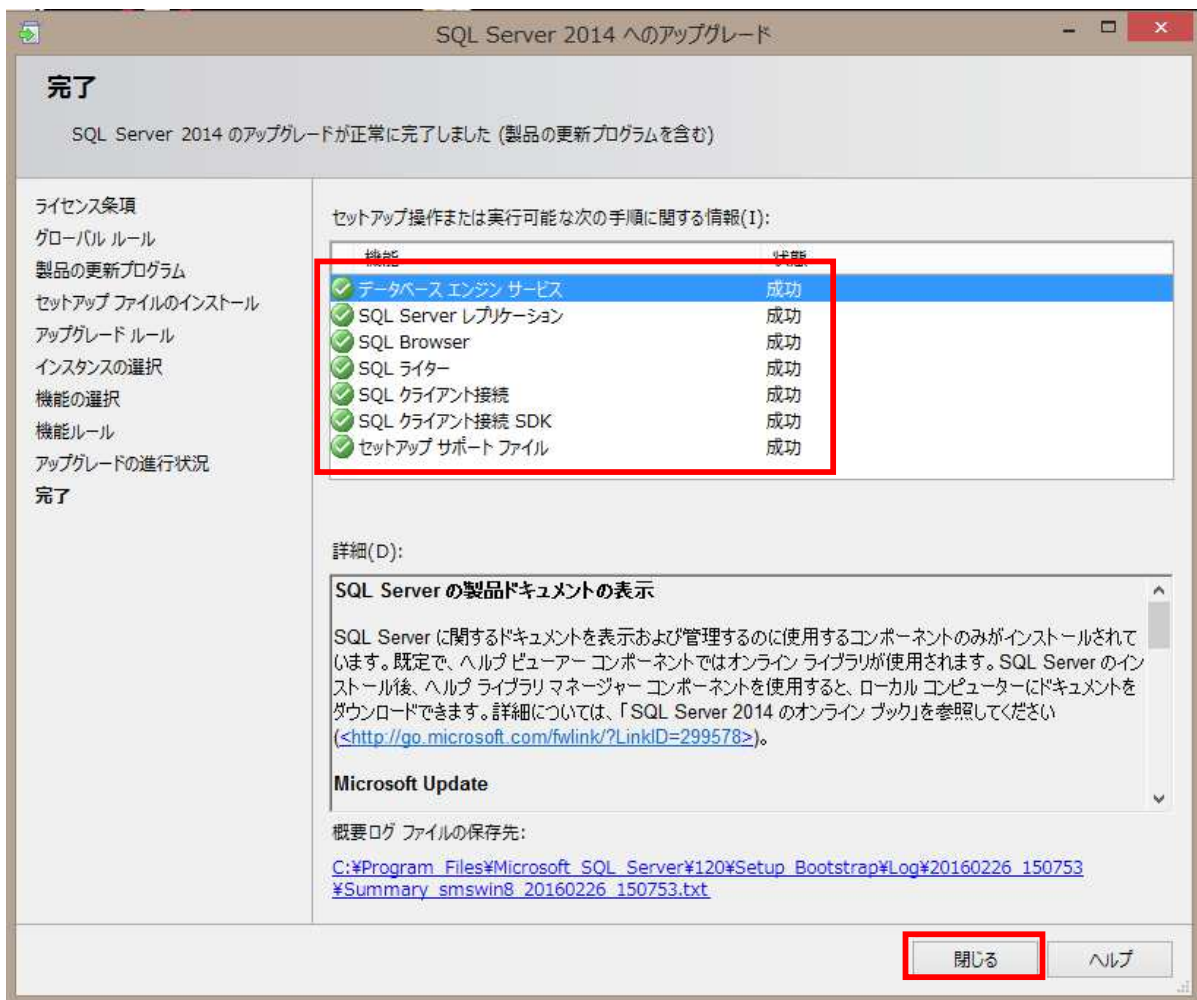


- 4) そのまま「次へ」をクリックしてください。 ※SQLEXPRESSになっていることをご確認ください  
処理が始まります





5) 全ての内容が「成功」していれば、アップグレード完了です。画面を閉じてください

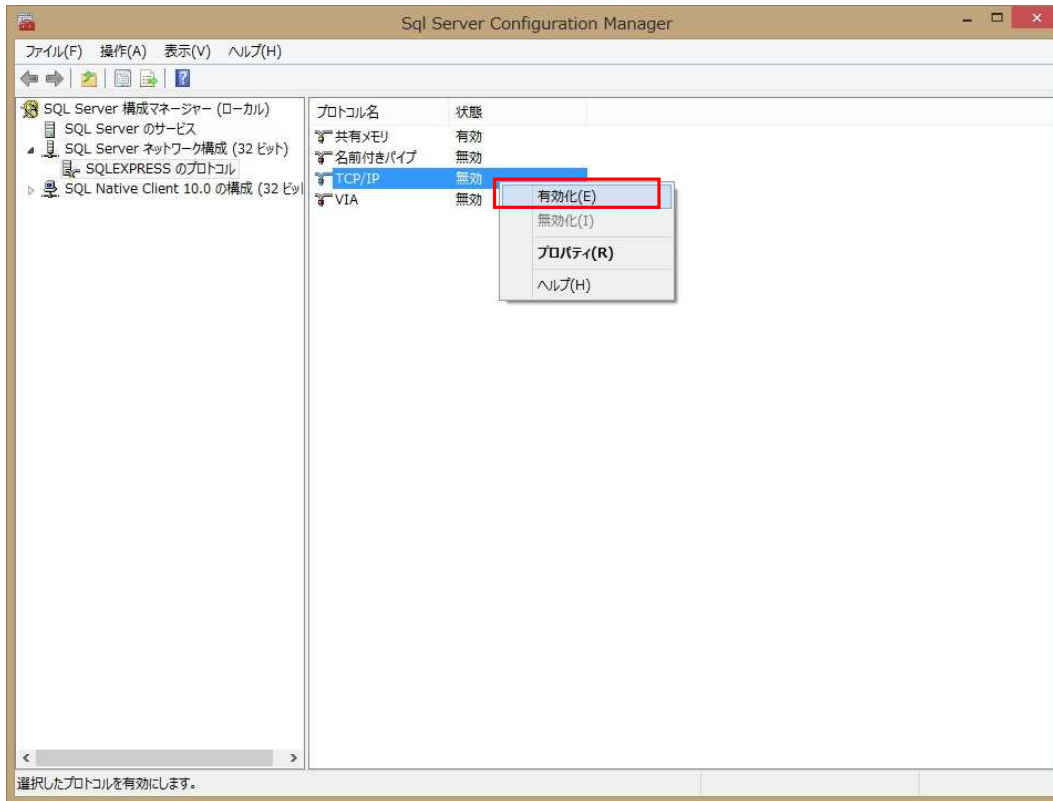


### 3. ネットワーク開放設定

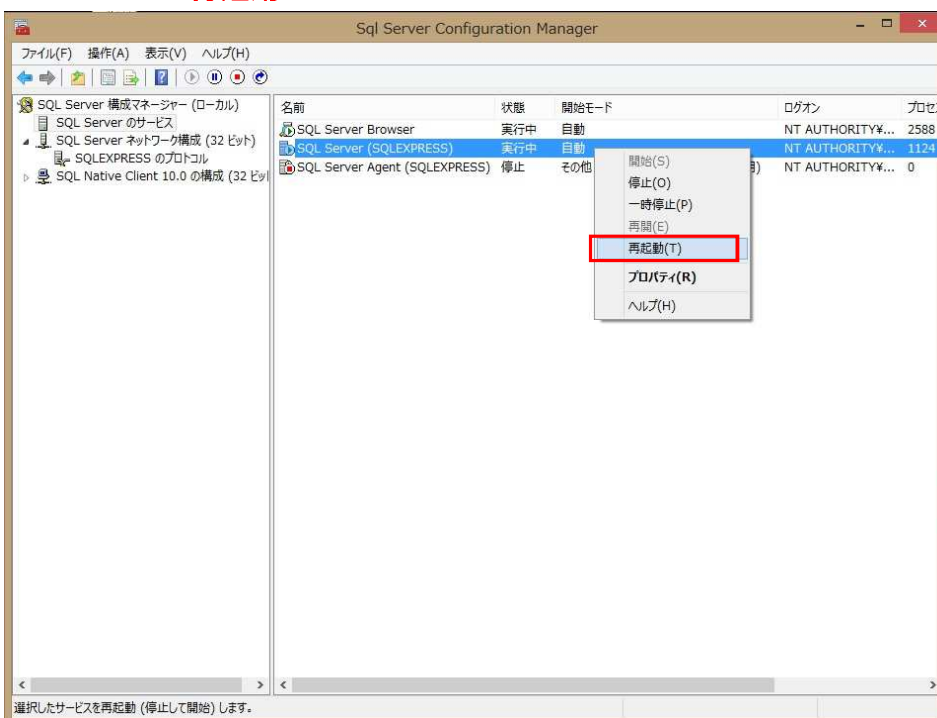
1台のパソコンで運用されている方は不要です。22ページの4.へ進んでください。  
複数台のパソコンで運用中のお客様のみの設定です。

1 スタートメニュー¥プログラム¥Microsoft SQL Server 2014¥構成ツール¥SQL Server Configuration Manager (または構成マネージャと日本語の時もある)を開く

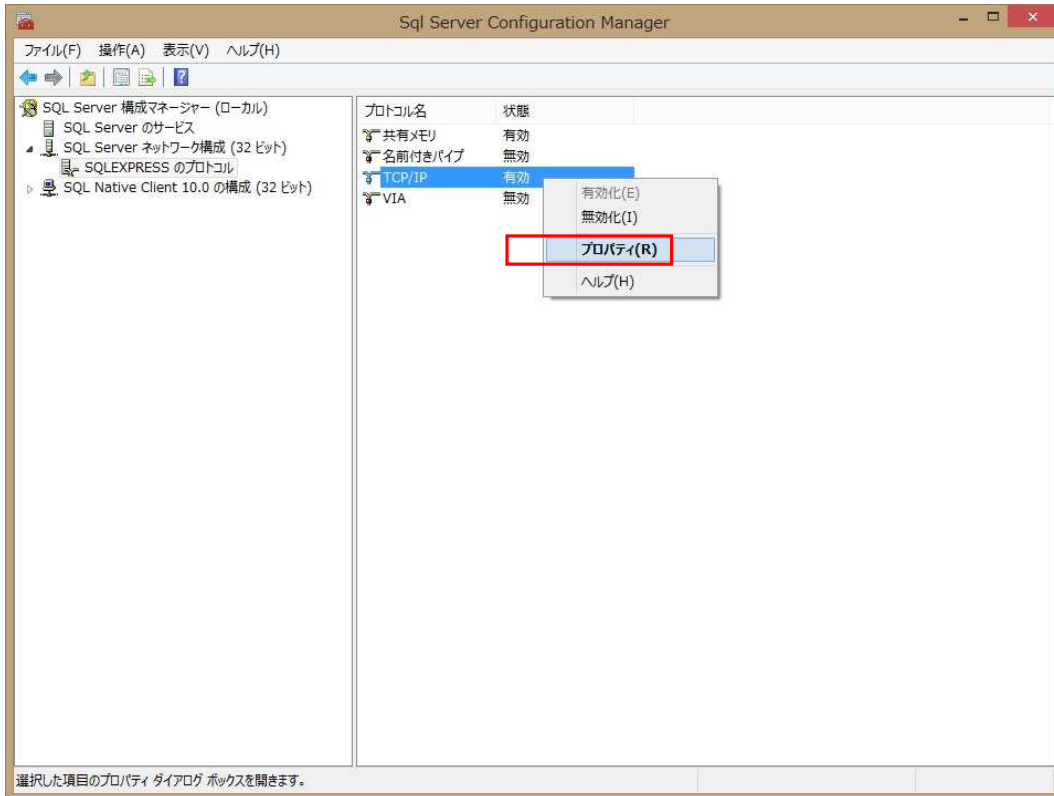
a. SQL Server ネットワークの構成 → SQLEXPRESSのprotocols → TCP/IPを選択し、右クリックして「有効化」を選択しクリックする。



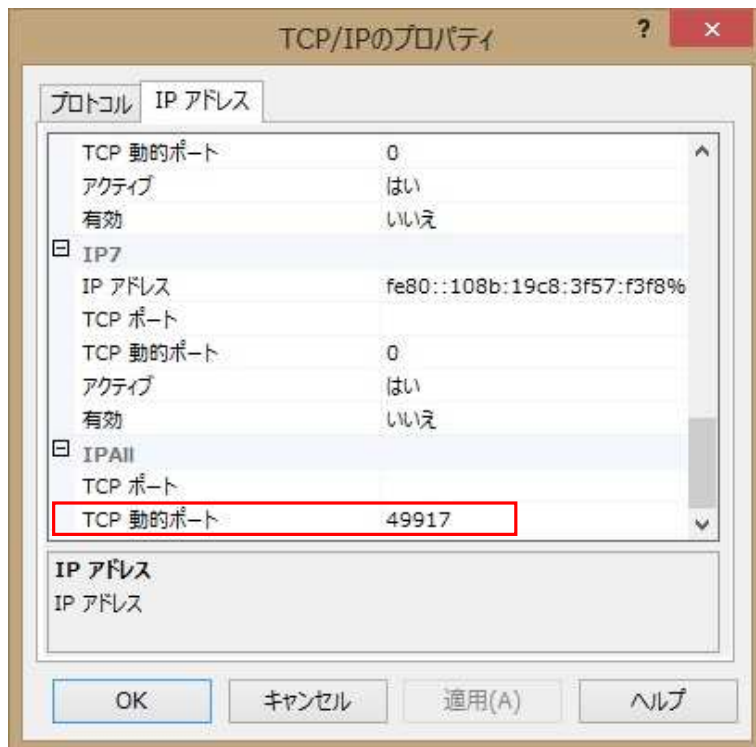
b. SQL Server のサービス → SQL Server(SQLEXPRESS)を選択し、右クリックして「再起動」を選択しクリックする。(処理に多少時間がかかります)



- c. SQL Server ネットワークの構成 → SQLEXPRESSのプロトコル→TCP/IPを選択し、右クリックして「プロパティ」を選択しクリックする。



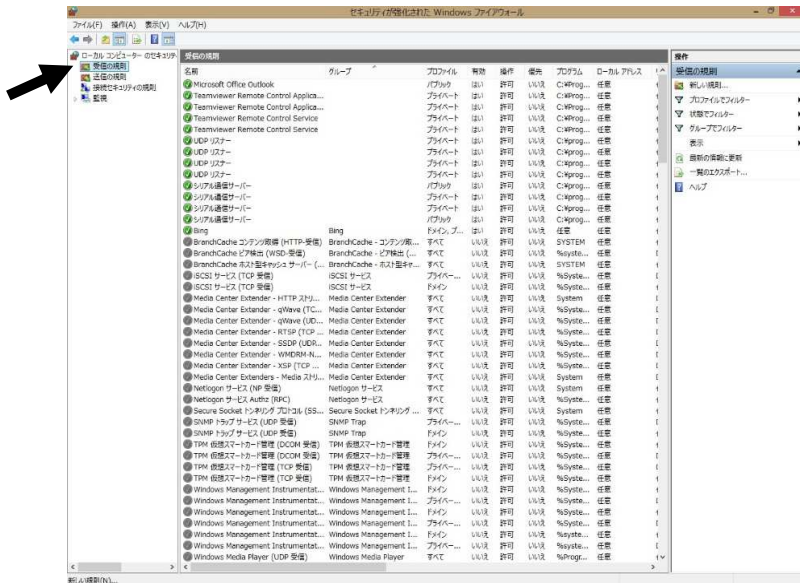
- d. IPアドレスのタブを開き、「TCP動的ポート」の数値を覚える。この場合は、「49917」となる。TCP動的ポートが複数ある場合もありますが、ゼロ以外のものが一つだけあるはずなので、その数値を覚えておいてください。



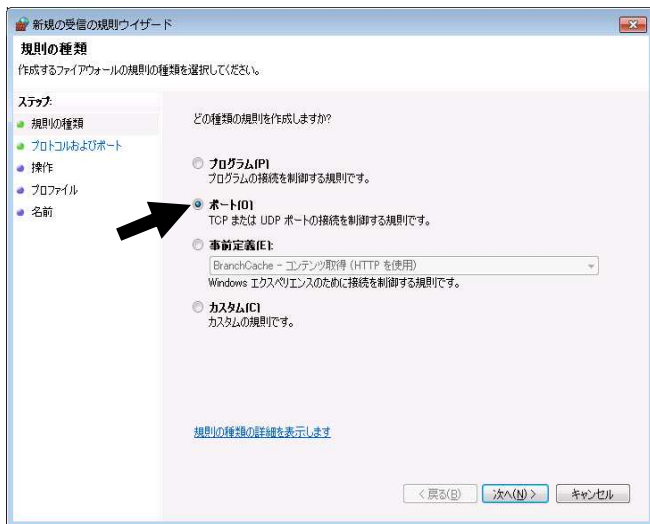
2 コントロールパネル→Windowsファイアウォールを開き、詳細設定をクリックして以下の画面を出す。

2-1.TCPのポート開放

画面左の受信の規則を選択し、右メニューの”操作”→”新しい規則”を選択する。



a. ポート[0]を選択して、次へのボタンを押す。



b. 適当な名前を入力し、「TCP」にチェックが入ってるのを確認し、1-d.で見たTCP動的ポートを入力して次へボタンを押す。この例では、「49917」と入力。



**注意事項**

SQLサーバーTCP1433と言う名称でポート番号1433も同時に開放をしておいてください。

※名称は何でも良いですが、1433と名称にあると把握しやすいです。

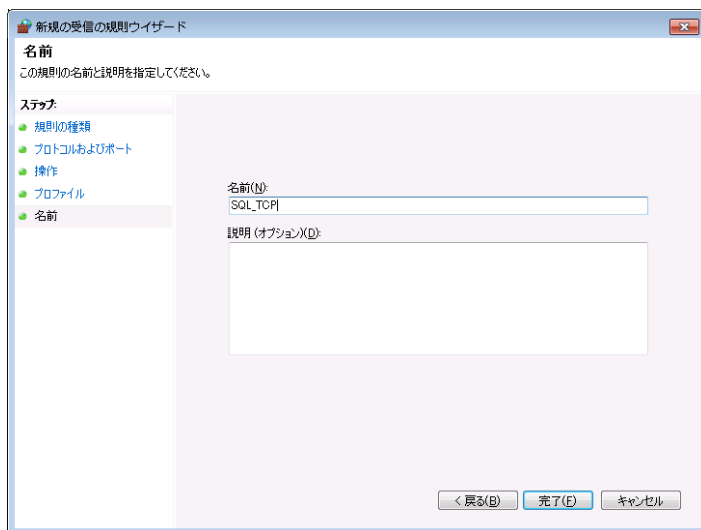
- c. 接続を許可する[A]を選択して、次へボタンを押す。



- d. 3つともチェックを入れた状態で次へボタンを押す。

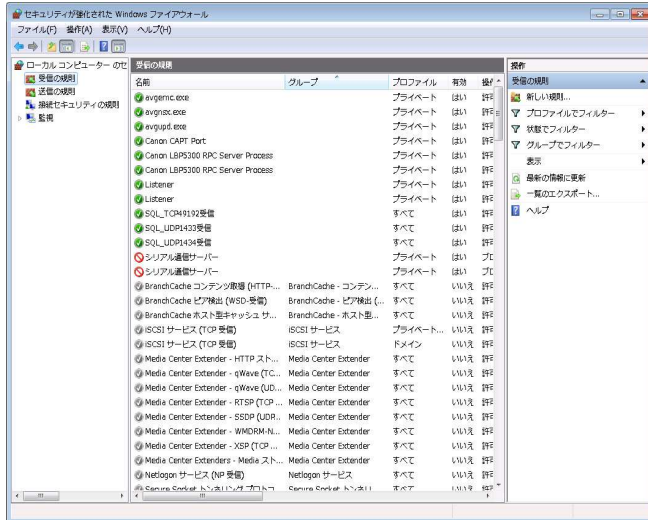


- e. 名前を入力して完了を押す。名前は何でも良い。例: SQL\_TCP など。  
(SQL\_TCP49917と動的ポートの数字を入れておくと把握しやすい)

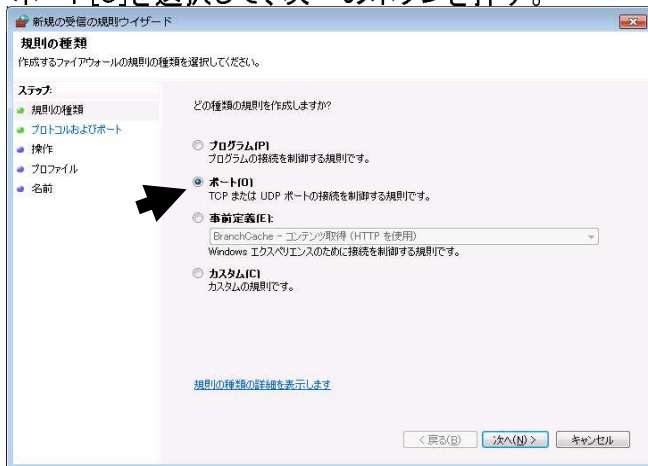


## 2-2.UDPのポート開放

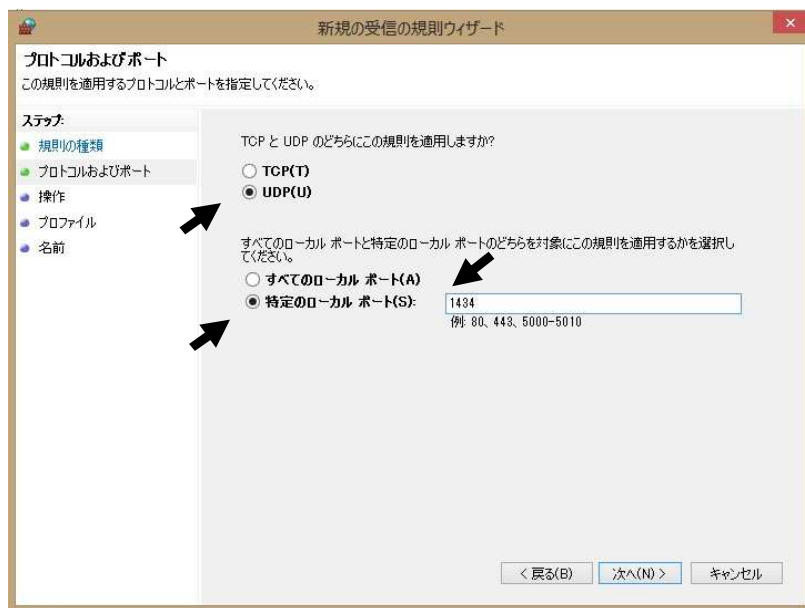
画面左の受信の規則を選択し、右メニューの“操作”→“新しい規則”を選択する。



- a. 受信の規則を選択した状態で、メニューの“操作”→“新しい規則”を選択し、以下の画面を出す。ポート[O]を選択して、次へのボタンを押す。



- b. 適当な名前を入力し、「UDP[U]」にチェックが入ってるのを確認し、「1434」と入力して次へボタンを押す。





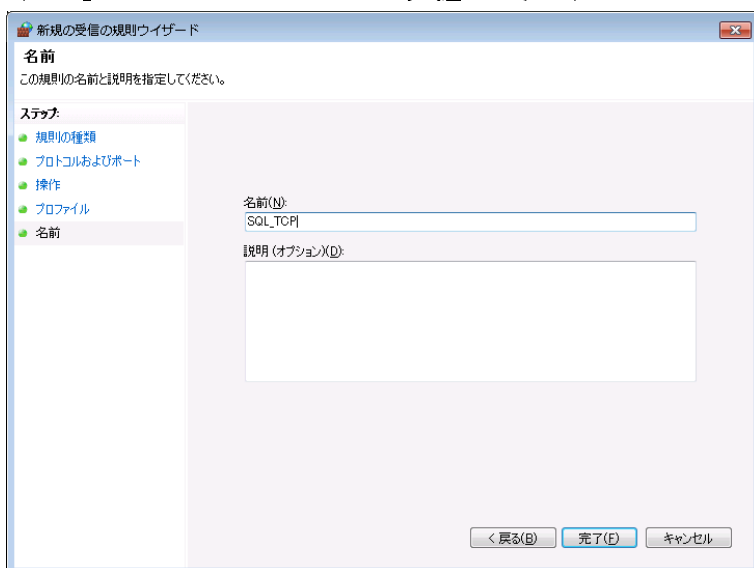
- c. 接続を許可する[A]を選択して、次へボタンを押す。



- d. 3つともチェックを入れた状態で次へボタンを押す。



- e. 名前を入力して完了を押す。名前は何でも良い。例: SQL\_UDP など。  
(SQL\_UDP1434と入力しておくくと把握しやすい)



Windowsファイアウォールをセキュリティソフトで管理されている場合は、セキュリティソフト側でポート開放が必要になります。

#### 4. データベースの設定

- 1) 「データベース管理ツール8」を起動して、「保存」をクリックしてください。  
[Windowsスタートメニュー] → [すべてのプログラム] → [エスエムエス]フォルダ → [データベース管理ツール8]をクリックしてください。  
「データベース管理ツール8」を終了し、ソフトが正常に起動できることをご確認ください。

#### 【ソフトが起動しない場合】

データベース管理ツールを管理者で実行して、上記1)の作業をして下さい。

※アイコンを右クリックで「管理者で実行する」にて起動  
それでもソフト起動出来ない場合は、メインのパソコン自体の再起動を試してみてください

■うまくいかなければ、サポートセンターにご連絡ください。(073-433-6233)



この部分は絶対に変更しないでください！（環境によって、設定が様々です）

間違っても変更や削除した場合は、保存をクリックせずに一度終了させてください。  
再度開けば元通りになります。

以上で、作業は終了です。